



Web Fairy

第125号 Paradise

今月のフェアリー詰将棋

- ・ 第106回 WFP 作品展(再掲)
- ・ 第107回 WFP 作品展
- ・ Fairy of the Forest #47

結果発表

- ・ 第105回 WFP 作品展

読み物

- ・ 自然数を2つの整数の平方の和で表す(IV)
(神無太郎)

(改訂:2018/11/22)



2018/11

はじめに



バドミントン

プロ野球日本シリーズでは、カープはこてこてにソフトバンクにやられて、終盤まで独走状態だった J1 のサンフレッチェも信じられない失速で優勝を逃しました。終わりよければ全てよしという言葉をしみじみと感じさせる11月です。

私の生活の二本柱は詰将棋とバドミントン。そのバドミントンの話題ですが、今月は大きなイベントが2つありました。1つは初心者～中級者バドミントン教室の開催。全8回で参加者32名を教えます。これは毎年やっているもので普及活動の一環です。大事なはいかに楽しさを感じてもらえるか。これが大事です。詰将棋の会合でもはじめて来た方にいかに次回も着ていただけるかいうのにも通じることですね。

それも無事終わり、17.18 日に新居浜市で開催されたのが日本ろう者バドミントン選手権大会。耳の不自由な方のバドミントンの全国大会です。私は審判のお手伝いで参加しました。恥ずかしいことですが話を聞くまでこの大会があることを存じ上げませんでした。理事の方も仰られていましたが知名度が低いのが悩みだとか。

バドミントンはシャトルを打った時の音を聞くことが実はすごく大事で動く判断に大きく関わってきます。試合を見ましたがかなりレベルは高く。ハンデを感じさせないプレーには驚きました。会場内は皆さん手話で会話されるので実に静かで、本当に貴重な体験をさせて頂きました。先日行われたアジア大会でも好成績を収められているとのこと。今後も楽しみです。

作品

フェアリー作品、PG、推理将棋はそれぞれの投稿先へ投稿下さい。

読み物

フェアリー詰将棋に関するものに限らず日常のことも研究物でも4コマ漫画からパロディ、イラスト、マイベスト10、自己紹介、何でもOKです。

感想

第125号の感想、今後の要望、ご意見等なんでも結構です。是非メールにて私まで

皆様の反応が私の意欲に成りますので是非ご協力をお願いします。

読み物、感想の投稿はこちらまで

たくぼん：takuji@dokidoki.ne.jp

協力いただいている方々の HP アドレス

*ご協力感謝します

妖精都市

<http://cavesfairy.gl.xrea.com/pub/>

詰将棋メモ

<http://toybox.tea-nifty.com/>

詰将棋おもちゃ箱

<http://www.ne.jp/asahi/tetsu/toybox/>

Onsite Fairy Mate

<http://k7ro.sakura.ne.jp/>

K.Komine's Home Page

<http://19900504.web.fc2.com/index.html>

フェアリー時々詰将棋

<http://fairypara.blog.fc2.com/>

占魚亭残日録

<http://d.hatena.ne.jp/sengyotei/>

第106回WFP作品展(再掲)及び 第107回WFP作品展

担当：神無七郎

新屋泰造 作

相手の駒も動かせる詰将棋 7手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

	王	銀							一
									二
		歩							三
歩		銀							四
金	金								五
									六
	桂								七
									八
									九

持駒 銀

(カピタン 第23号,1981年4月)

第105回WFP作品展で「All-in-Shogi」という相手の駒も動かせるルールが作品が登場しましたが、これで思い出した作品があります。それが上図の新屋泰造氏の作品です。ルールには命名がなく、そのまま「相手の駒も動かせる」として出題されていました。

あいにく筆者はルールが書いてあるカピタン14号を持っていないため、詳細が分からなかったのですが、たくぼん氏から以下のように説明されているとのご教示を戴きました。

「敵の駒を動かすことができる」というルール。但し玉をこちらの駒の利きに入れるなどの普通の将棋での禁手は指せない。また一手前の状態に戻すことは禁止。もちろん敵の持駒を打つ事ができる。

「All-in-Shogi」と異なり、相手の玉を自駒の利きに入れる王手は禁止されているわけですね。

筆者はルールの詳細を知らなかったため、「一手前の状態に戻すことは禁止」という規定はないと思込んでいたのですが、実はそれでもこの作品の作意は成立します。

実際に上図の作意を見てみましょう。

82 銀打 92 玉 93 歩生 83 玉 84 金左 同飛
95 桂 まで 7手

この手順の攻方の4つの着手はどれも「元に戻したくても戻せない」手です。

初手は「打」なので、盤上でいくら駒を動かしても元の局面に戻せません。3手目の着手は打歩詰に関係のない歩の不成。歩は後ろに進めないで、この着手も元に戻せません。5手目は金が斜め前に進む手。金は斜め後ろに進めないでこの着手も元に戻せません。最終手の桂も、桂が後ろに跳べないため元に戻せません。

変化と紛れも確認してみましょう。

2手目 93 銀生とする変化は 82 銀右成、83 全、82 銀成で詰みます。2手目 91 銀生や 93 銀成も同様です。

3手目 93 歩成とする紛れは、94 と、93 銀成、91 玉、82 銀成、72 全以下不詰。上述の変化と似ていますが、玉が 81 か 91 かの微妙な違いで、詰・不詰が分かります。

そして最終手 75 桂の紛れは 63 桂以下不詰。この逃れ順は5手目と7手目の手順前後の防止にも役立っています。狭い方に跳ぶ 95 桂は味わいがありますね。

このように、この作品にはこのルールのエッセンスが豊富に含まれ、一号局として良い出来だと思えます。

ただ、このルールを対抗系ルールに適用した場合の発展性の乏しさは、当時から指摘されており、実際に後続作は現れませんでした。このルールに「一手前の状態に戻すことは禁止」という規則が付加されていたのは、対抗系ルールで作り易くすることが目的だと思われるが、それでも創作は困難だったわけです。

でもここで一つの疑問が浮かびます。フェアリーのルールに「発展性」とか「作り易さ」は本当に必要でしょうか？

カピタン誌では新ルールが多数提案されましたが、その大半は試作品すら発表されずに忘れ去られています。近年のフェアリーでも、その作品専用の特殊ルールや、特別な変則駒が用いられ、同じルールや駒を使った作品が二度と登場しない事例が増えています。

ならば「発展性」や「作り易さ」など度外視した創作困難なルールがあっても良いのでしょうか？

実際、筆者も新屋泰造氏のこの作品を見た時、

よくこんなルールでまともな作品を作れたものだと感じました。普通詰将棋でも創作困難な条件を克服した作品は、それだけで評価が高くなります。そして、その条件下で面白い手順が実現できれば更に評価は上がります。

また、ルールそれ自体を「条件」とみなせば、それは難条件を克服したのと同じです。例えば「一本道詰将棋」は一種の変則ルールとみなすことができますが、この分野では詰棋猫作 55 手「ダイヤモンド」のような、条件を克服し、新記録を達成しただけではなく、十分に鑑賞に値する作品が生まれています。

応用範囲の広いルールは、多くの人が多く作品を創作できるという点で価値があります。でもそれはそれとして、追従者を生まないことを承知の上で「創作困難ルール」に敢えて挑戦する…そんなフェアリーへの取り組み方もあって良いと思います。

さて、今月の WFP 作品展は第 106 回の再掲載分と第 107 回の新規出題分です。

第 107 回の出題は全 12 題。来月の新規出題がお休みのため、通常より締切が一ヶ月分長くなっています。とはいえ、年末年始は何かと忙しいですし、年明けは年賀詰が飛び交うので、油断すると時間不足は必至です。解ける時に着実に解いて、全題正解を目指しましょう。

〔第 106 回作品展各題への補足説明〕（再掲）

第 106 回の出題は 9 題。内訳は神無太郎氏 3 題、Pontamon 氏 1 題、変寝夢氏 3 題、占魚亭氏 1 題、青木裕一氏 1 題です。

どの作品も 11 手以下という短編特集ですが、Imitator 絡みの作品が 5 題もあります。心して取り組んでください。

106-1～**106-3** は神無太郎氏の Imitator を使った協力詰。手数が長く、複雑な展開が予想されますね。今回最大の難関でしょう。

106-4 は Pontamon 氏の推理将棋。今回は「同じ駒の連続着手」が主題。4 連続 2 回 + 2 連続 1 回か、4 連続 1 回 + 2 連続 3 回だそうですが、貴方はどちらから読みますか？

106-5～**106-7** は変寝夢氏の作品。中立駒をいろいろなルールと組み合わせたものです。まず **106-5** は「リパブリカン」との組み合わせ。盤上に何もない衝撃的な初形。裸玉というより無玉ですね。単玉の「リパブリカン」ですから、もち

ろん攻方王手義務はありません。中立駒は詰型が限られていますから、まずは詰型を先に考えましょう。**106-6** も「非王手可」という攻方王手義務のないルール。王手をしてはいけないうけではなく、必要ならば王手をして構いません。**106-6** は「対面」ルールとの組み合わせ。対面は相手の駒と向かい合ったときに互いの利きが入れ替わるルールですが、対象が中立駒の場合、中立駒を手番側の駒とみなして対面ルールを適用することになります。

以上 3 作いずれも受方持駒制限があるので、見た目よりは解き易いと思います。

106-8 は占魚亭氏の Imitator 作品。手数が奇数ですが、協力詰ではなく、受先形式の協力自玉詰です。42 地点が穴（着手不可、通過は可）と定義されていますが、これは余詰防ぎなので、あまり気にしないでください。

106-9 は青木裕一氏の Imitator 作品。今回唯一の協力系でない作品です。Imitator がなければ頭金の 1 手詰ですが、もちろんそうではありません。きちんと変化を読み切りましょう。

〔第 107 回作品展各題への補足説明〕

第 107 回の出題は 12 題。内訳は Pontamon 氏 1 題、神無太郎氏 2 題、たくぼん氏 1 題、一乗谷酔象氏 1 題、上谷直希氏 1 題、青木裕一氏 1 題、占魚亭氏 2 題、変寝夢氏 3 題です。いつもより作者数が多く、いろいろなタイプの作品が登場するので楽しそうですね。

その代わりルールも多様で頭の切り替えは大変かもしれません。いつもより長い解答募集期間を利用して、着実に一間ずつクリアしていきましょう。

107-1 は Pontamon 氏による簡潔な条件の推理将棋。条件が少ないので、ヤマが当たるかどうかで大きく難易度が変わりそうです。氏の作風による推理が鍵になりそうですね。

107-2 と **107-3** は神無太郎氏の作品。氏は最近 Imitator 作品での登場が続きましたが、今回は対面と PWC ということで、比較的慣れ親しんだ分野に戻ってきたと言えるかもしれません。**107-2** は持駒歩のみなので、打歩詰にならないように進めること。**107-3** は PWC なので駒を消費せずにスタイルメイトを達成するためのテクニックを駆使してください。

107-4 は非標準駒数作品。盤面を埋め尽くす「と金」に圧倒されますが、その分手が狭いの

でサクサク手が進むと思います。ただ、「禁欲」の条件があるので収束で少し考えさせられるかもしれません。作者がたくぼん氏だからといって、「強欲」と間違えないように！

107-5 は一乗谷酔象氏創案の「天使詰」。天使詰は双方協力して同一局面を避けつつ最長の詰みを目指すルールですが、それでもこの狭い形で 100 手を越えるとは驚きです。難問だとは思いますが、怯まず挑戦してください。

107-6 は久々登場の上谷直希氏の作品です。Queen の性能になった玉を詰めないといけないので大変そうですが、攻撃陣も強力。各駒の性能を最大限に活かしてください。

107-7 は今回唯一の協力系ではない作品。前回に引き続き対抗系ルールの面白さを味わえると思います。「最善」指定があるので、攻方最短順を解答してください。

107-8 と **107-9** は占魚亭氏の作品。Imitator が使われているのはいつも通りですが、今回はそれに AntiAndernach が加わっています。受方持駒制限のある **107-8** と手数短い **107-9** のどちらが解き易いかは微妙ですが、どちらも難しいと思えば間違いはないでしょう。また、どちらかの作品は、第 104 回 WFP 作品展における氏の短評の中に解図のヒントが隠れています。

107-10～**107-12** は変寝夢氏の作品。最近登場した All-in-Shogi 2 作と、中立 Locust を使った作品です。All-in-Shogi の 2 作は第 105 回の作品が参考になると思うので、未見の方は第 105 回の結果稿を参考にしてください。

107-10 の玉は不動玉。一口に「不動」と言っても Dummy (偶) のように「利きがない」場合や、Zero (零) のように「現在の位置にのみ動く」場合、「利きは持っているが動かない手順を求める」(手順の制約) という 3 つのケースがありますが、今回は利きがない Dummy になっているので、「偶」で不動玉を表しています。

107-12 は中立駒が 2 枚もあるのが厄介。中立駒はどちらからも動かせるので、詰めるときだけでなく、ステイルメイトの時も扱いが難しい駒です。まずは Locust がどのような場合に動き、どのような場合に動けないのかを頭に入れましょう。そうすれば自玉の包囲と、中立駒の凍結を同時に達成する方策も立てられると思います。

解答要項

第 106 回分解答締切:2018 年 12 月 15 日(土)

第 107 回分解答締切:2019 年 2 月 15 日(金)

宛先: k7ro.ts@gmail.com (メールの件名に「解答」の語句を入れてください。)

解答メールが届かない場合は掲示板 (<http://k7ro.sakura.ne.jp/wait.html>) やブログ (<http://k7ro.sblo.jp/>) でお知らせください。

作品投稿について

作品投稿は随時受け付けます。(原則として毎月 15 日の投稿まで当月号に掲載します。)

宛先は解答と同じ k7ro.ts@gmail.com へ。

メールの件名に「作品投稿」の語句を入れてください。添付ファイルも可。機械検討済みなら出力結果のファイル添付を推奨します。

WFP 作品展: 年末年始の予定

来年 1 月は「氾濫」結果稿の作成と重なるため、WFP 作品展 12 月号の新規出題と来年 1 月号の結果稿はお休みさせていただきます。

今後の予定は以下ようになりますので、あらかじめご承知ください。

	12 月	1 月	2 月
第 106 回	結果		
第 107 回	再掲	再掲	結果
第 108 回		出題	再掲
第 109 回			出題

ルール説明

※WFP のページにまとめ資料 (<http://www.dokidoki.ne.jp/home2/takuji/wfprule97.pdf>) があるので、それも参考にしてください。

【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

【Imitator】(■または I)

着手をしたとき、その着手と同じベクトルだけ動く駒。この Imitator が駒を飛び越えたり、駒のある地点に着手したり、盤の外に出たりするような着手は禁止。これは王手の判定にも適用される。

【推理将棋】

将棋についての会話をヒントに将棋の指し手を復元する。

【リパブリカン】

最終手を指すと同時に任意の空きマスから一つ選んで玉を置き、詰んでいる局面を作る。

(補足)

- 1) 双玉等において詰める対象でない玉は通常の玉と同じく、最初から最後まで盤上に存在する
- 2) 詰める対象の玉は「盤上にあるが見えない」わけではなく、詰むときに盤に出現する。従って玉がどこかにいる前提での着手の合法・非合法の判定は行わない。ただし、最終手では玉を置いた後の配置で合法局面かどうかの判定を行う。
- 3) 単玉の場合最終手を除き王手義務はない。白玉系のルールのように、詰める対象の玉と王手義務の対象となる玉が異なる場合は、王手を掛けるべき玉に対する王手義務がある。

【中立駒】(「」あるいは「n駒」)

どちらの手番でも動かせる駒。

(補足)

横向きの字か横に n を付加して表記。

取り方や動かし方は以下の細則に従う

- 1) 中立駒の動きは現手番の駒としての動きとなる(利きが非対称な駒の場合に要注意)
- 2) 中立駒は現手番の駒として成れる場合のみ、成ることができる
- 3) 中立駒はどちらの手番でも取ることができ、持駒になる。この時、所属は取った側の持駒だが中立性は失わず、再び盤に戻ったときには中立駒として振舞う。
- 4) 中立駒は現手番側の駒を取れない。相手側の駒や、中立駒は取れる。
- 5) 二歩禁が適用される。手番を問わず、中立駒の歩や通常の歩がある筋に、更に中立駒の歩を打つことはできない。
- 6) 中立駒は行き所ない駒にならない。
- 7) 中立駒でも白玉への王手は反則。白玉への王手となっているかどうかの判定は、現手番が終了し、相手側が着手する前に行う。

【非王手可】

攻方に王手の義務がない。

(王手をしても良い)

【対面】

敵駒と向かい合ったとき、互いに利きが入れ替わる。

【協力白玉詰】

先後協力して最短手数で攻方の玉を詰める。

【受先】

受方から指し始める。

【穴】(○)

着手はできないが、走り駒が通過することはできる箇所を表す。

【最善詰】

攻方は受方がなるべく早く詰むよう王手を掛け、受方はなるべく詰まないよう応じる。

(補足)

- ・いわゆる普通の詰将棋から枝葉(無駄合概念や、駒が余るかどうかで手順に優劣を付ける規則)を取り除き、攻方最短を義務化したもの。攻方最短・受方最長のみが正解で、長手数数の余詰は不問。

【PWC】

取られた駒は取った駒が元あった場所に復元する。(駒位置の交換となる)

(補足)

戻り方等は以下の細則に従う

- 1) 駒の成・生の状態は維持されたまま位置交換される。
- 2) 位置交換の結果、相手駒が二歩になったり、行きどころのない駒になる場合は、通常の駒取りと同じで、盤上に戻らず、自分の持駒になる。
- 3) 駒取り時、駒が戻るまでを一手と見なす。

【スタイルメイト】

王手は掛かっていないが合法手のない状態にする。

【禁欲】

駒を取らない手を優先して着手を選ぶ。

【天使詰(最長協力詰)】

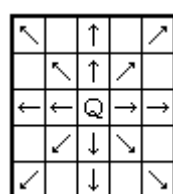
先後協力して最長手順で受方玉を詰める。

(補足)

- ・悪魔詰と異なり不詰は避ける
- ・手順中に同一局面があってはならない(初形を含む)

【Queen】(Q)

チェスの Queen。飛車と角を合わせた性能を持つ。



(矢印がQの走る方向)

【安南】

味方の駒が縦に並ぶと、上の駒の利きは下の駒の利きになる。

【AntiAndernach】

駒を取らない盤上の移動(駒を取る及び持駒

を打つ以外の着手)を行うと、着手後に相手の駒となる(玉を除く)。

(補足)

・細則は **Andernach** と同様で「駒取り」を「駒を取らない盤上の移動」に読み替える。

- 1)駒を取らない盤上の移動で二歩になる場合相手の駒にならない
- 2)駒の向きの転換は成生の選択の後に行われ、成生の選択権は駒を取った側にある
- 3)駒を取らない盤上の移動の場合に限り、8段目への桂の不成、9段目への桂香歩の不成が可能(二歩の例外を除く)

【All-in-Shogi】

双方とも、自分の手番のときに相手の駒を動かすこともできる。敵玉を王手がかかる位置に動かしてもいいし、敵の持駒を打ってもいい。ただし、双方とも1手前の局面に戻すような着手は禁手とする。

(WFP1号、WFP122号参照)

(補足)

- 1)相手側の駒を動かすとき、自分側の駒を取らせることはできるが、相手側の駒を取らせることはできない
- 2)相手側の駒で自分側の駒を取らせたとき、その駒は相手側の持駒となる

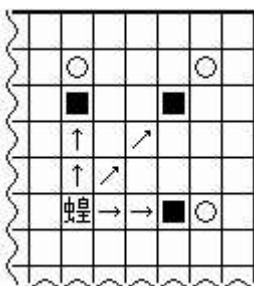
【Dummy】(偶)

自分では動かない駒

【Locust】(蝗)

フェアリーチェスの **Locust** (蝗)。

Queen の利きの方向にある敵駒を跳び越えその1つ先の空きマスに着地し、跳び越えた敵駒を取る。



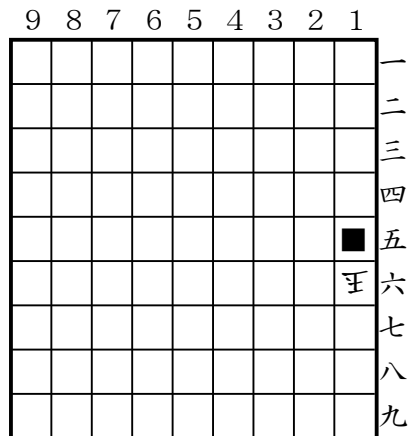
(○が蝗の利き。
■は敵駒。これを取って○に移動する。■が味方の駒だったり、○の地点が埋まっていたりすると跳べない。)



<第106回>解答締切:2018年12月15日(土)

■ 106-1 神無太郎氏作

協力詰 11手

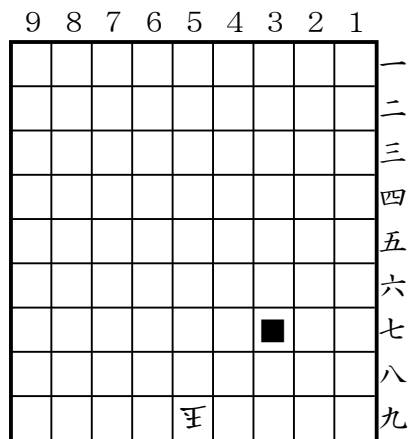


持駒 金歩

※■:Imitator

■ 106-2 神無太郎氏作

協力詰 11手

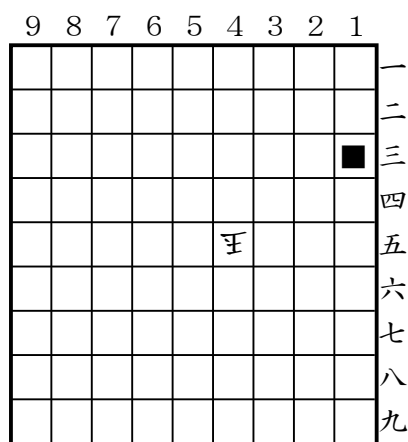


持駒 銀2

※■:Imitator

■ 106-3 神無太郎氏作

協力詰 11手



持駒 銀桂

※■:Imitator

■ 106-4 Pontamon 氏作

推理将棋

「同じ駒の連続着手ばかりの対局で、連続は2連続と4連続で単独着手は1回だった」
 「手順が分かった、初手26歩から23歩成までの7手詰だろ」
 「いや、不成は一度あったけど駒成は無い11手詰だよ」
 「11手となると、2連続が3回と4連続が1回、または2連続が1回で4連続が2回のどっちかだね」

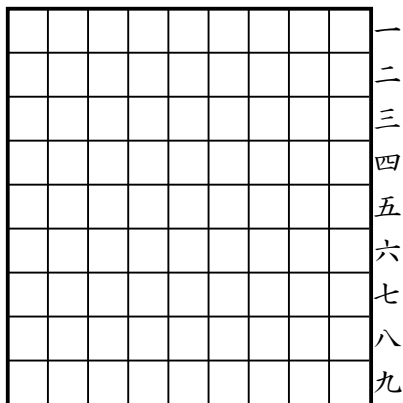
[条件]

- 1) 11手で詰み
- 2) 同じ駒を2連続や4連続で指す以外の手は1手だった
- 3) 駒成は無かったが不成が1回あった

■ 106-5 変寝夢氏作

リパブリカン協力詰3手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

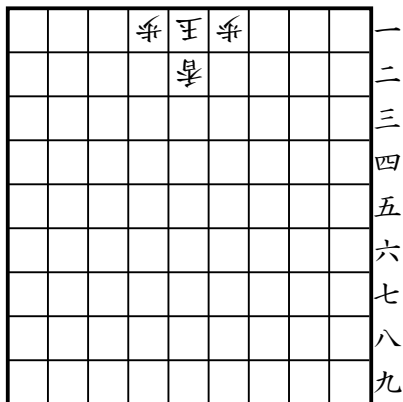


攻方持駒 n銀 n桂
 受方持駒 なし
 ※持駒銀桂は中立駒

■ 106-6 変寝夢氏作

非王手可協力詰5手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

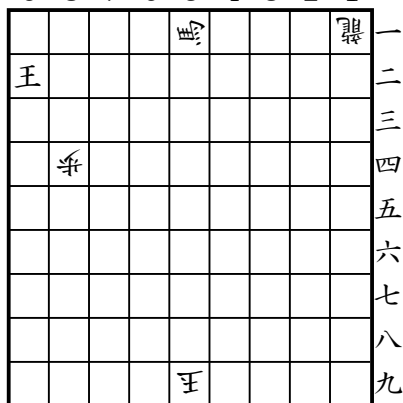


攻方持駒 n桂
 受方持駒 なし
 ※持駒桂は中立駒

■ 106-7 変寝夢氏作

対面協力自玉詰10手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

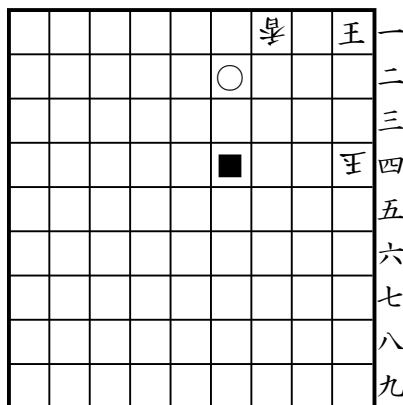


攻方持駒 なし
 受方持駒 なし
 ※51馬は中立駒

■ 106-8 占魚亭氏作

協力自玉詰5手 ※受先

9 8 7 6 5 4 3 2 1

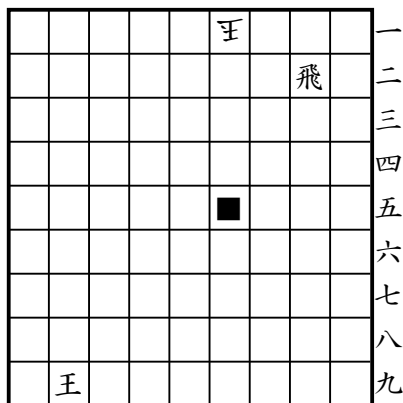


持駒 香
 ※■:Imitator
 ○:穴 (着手不可、通過可)

■ 106-9 青木裕一氏作

最善詰5手

9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 金
 ※■:Imitator

<第 107 回>解答締切:2019 年 2 月 15 日(金)

■ 107-1 Pontamon 氏作

推理将棋

「11 手で詰めたって？」
 「うん、最終手の 5 段目での飛成は初の駒成だったよ」

[条件]

- 1) 11 手で詰み
- 2) 最終手の 5 段目での飛成は初の駒成

■ 107-2 神無太郎氏作

対面協力詰 9 手

										一
角	角									二
										三
										四
										五
										六
										七
								王		八
飛										九

持駒 歩4

■ 107-3 神無太郎氏作

PWC協力白玉スタイルメイト 10 手

										一
						王				二
							王			三
										四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 香

■ 107-4 たくぼん氏作

禁欲協力詰 73 手

										一
ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	♀		二
ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス		三
ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス		四
ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス		五
ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス		六
ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス		七
ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス		八
王		ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス		九

攻方持駒 金31
 受方持駒 なし

■ 107-5 一乗谷酔象氏作

天使詰 101 手

								♂	銀	角	一
						桂				銀	二
							歩	歩	♀		三
						角				王	四
							香				五
								王	♂		六
						♂					七
											八
											九

持駒 飛桂

■ 107-6 上谷直希氏作

協力詰 7 手

										一
										二
										三
角										四
										五
							王			六
						飛		♂		七
								銀		八
				ス				♂		九

攻方持駒 角
 受方持駒 なし
 ※Q:Queen王

■ 107-7 青木裕一氏作
安南最善詰 27手

			と	と	王	一
						二
					王	三
			飛			四
		と			歩	五
						六
						七
						八
						九

攻方持駒 歩4
受方持駒 なし

■ 107-8 占魚亭氏作

AntiAndernack協力自玉詰 6手

									一
									二
									三
									四
					王				五
									六
	■								七
							王		八
									九

攻方持駒 飛
受方持駒 角2
※■:Imitator

■ 107-9 占魚亭氏作

AntiAndernack協力詰 7手

									一
■									二
									三
					王				四
									五
									六
							王		七
									八
									九

持駒 香
※■:Imitator

■ 107-10 変寝夢氏作

All-in-Sho協力自玉詰 8手

				龍				王	一
									二
									三
									四
									五
					飛				六
龍									七
									八
王									九

攻方持駒 なし
受方持駒 なし
※偶:不動王

■ 107-11 変寝夢氏作

All-in-Sho協力自玉詰 8手

									一
					王				二
				歩					三
									四
王									五
	飛								六
角									七
									八
									九

攻方持駒 なし
受方持駒 なし

■ 107-12 変寝夢氏作

協力自玉スタイルメイト 6手

						王			一
				と					二
									三
				龍					四
				王					五
									六
									七
									八
					王				九

持駒 n角n蝗

※蝗:Locust

持駒角蝗は共に中立駒

以上

Fairy of the Forest #57 出題

- 2018年09月20日：課題発表：(協力詰)
「自由課題」
- 2018年11月15日：投稿締切
- 2018年11月20日：出題
- 2018年12月15日：解答締切
- 2018年12月20日：結果発表

■ 出題

看空氏から久しぶりに投稿がありました。それでも、やっと3作。相変わらず低空飛行が続いています。それにしても七郎氏がトップバッターというのは、かなり珍しいかも。

02 および 03 は、受方持駒に制限があるのでご注意ください。1題でも解けた方はご解答をお寄せください。

(解答先)
→酒井博久 (sakai8kyuu@hotmail.com)

■ 57-01 神無七郎 協力詰 21手

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								王	料	一
									歩	二
					歩	歩	王	料	料	三
				銀			桂	香		四
				桂	角	料	香			五
								香		六
								香		七
								龍		八
										九

持駒 金4

■ 57-02 青木裕一 協力詰 23手

受方の持駒：なし

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
										一
										二
										三
										四
										五
						料	と	歩	料	六
						又	歩	王		七
						歩	飛			八
						角	玉			九

持駒 なし

■ 57-03 小林看空 協力詰 57手

受方の持駒：歩2

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									王	一
						銀	料	料	料	二
					桂	料	桂	料		三
										四
							香			五
					王	香				六
							王	又		七
				歩		桂		歩	飛	八
				角		歩			玉	九

持駒 歩4

第105回WFP作品展結果 担当：神無七郎

第105回WFP作品展の結果を報告します。
 今回の出題は全9題（3問セットの問題があるので実質11題）。解答者数は11名。全題正解者1名。解答の内訳は以下の通りです。

〔第105回WFP作品展成績〕（敬称略）

○:正解 ◎:余詰解 ×:誤解 -:無解

解答者名	1	2	3	4	5	6	7a	7b	7c	8	9	計
はなさかしろう	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	11
たくぼん	×	○	×	×	○	◎	○	○	-	○	○	7
一乗谷酔象	○	○	○	×	-	◎	○	○	-	○	-	7
青木裕一	○	○	○	○	○	-	×	○	-	○	-	7
テイエムガンバ	○	○	○	×	-	-	○	○	-	○	○	7
変寝夢	-	-	○	○	○	-	○	○	-	○	○	7
占魚亭	○	○	○	○	-	-	-	-	-	○	○	6
園城寺怜	-	-	○	○	○	-	○	○	-	○	-	6
井上順一	-	-	-	×	○	-	○	○	-	-	○	4
Pontamon	-	-	-	-	-	○	○	×	×	-	-	2
江市滋	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	1

今回は初登場の「All-in-Shogi」で誤解続出。他にも誤解が散見され、105-7のc)は作者以外の正解者はゼロになりました。また、既に告知した通り、今回は105-6に余詰がありました。作者以外はいずれも余詰解で、作意解はなし。相撲用語風に言えば「荒れる秋場所」の様相を呈しています。

■ 105-1 神無太郎氏作（正解5名）

協力詰5手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

										一
										二
										三
										四
										五
										六
										七
									王	八
									■	九

持駒 金銀

※■:Imitator

【ルール】

•協力詰

先後協力して最短手数で受方玉を詰める。

•Imitator（■またはI）

着手をしたとき、その着手と同じベクトルだけ動く駒。このImitatorが駒を飛び越えたり、駒のある地点に着手したり、盤の外に出たりするような着手は禁止。これは王手の判定にも適用される。

【解答】

19銀 17玉[I28] 27金 18角 28銀[I37]

まで5手

(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

										一	
										二	
										三	
										四	
										五	
										六	
								■	金	王	七
									銀	馬	八
											九

持駒 なし

【解説】

前回は走り駒を使ったImitatorの大移動を見せてくれた作者。今回の2局では一転して渋い小技を見せてくれます。

攻方は金銀での両王手（Imitatorを使った作品では頻出の手筋です）を目指して、持駒の銀と金を並べていきます。本局での注目は4手目。これはImitatorへの壁駒で金の王手を受ける手ですが、なぜ角なのでしょう？

理由は最終手で判明します。

もし4手目が18歩なら、最終手に対して19歩成[I28]の受けがあります。前に動ける駒はすべて同様の逃れ筋がありますし、桂は八段目には打てません。こうして4手目は角に限定されます。

こうした「限定壁駒」は後にその壁駒を何らかの形で「使う」ことでその種類を限定させる場合が多いのですが、本局では「使えない」よ

うにするために種類が限定されます。

積極的理由による限定ではなく、消極的理由による限定……玄人好みの渋い狙いですね。

【短評】

変寝夢さん（※無解）

最終形が17玉18銀19I、とっていた。作意の順も4手目（駒種は分からずXにしていたが）、までは追っていたのだが、最終手がわからなかった。残念です。

4手目の駒種の限定の方法が新鮮に感じた。

占魚亭さん

八段目に桂は打てない。

はなさかしろうさん

105-2 で練習してから顧みると、こちらも案外手が狭い。そして、壁角打ちがこちらもびったりですね。

たくぼんさん（※誤解）

これくらいの難易度だったら何とか楽しめます。でも暗算だと最終手が見え難い。

☆たくぼん氏は「19金 27玉[138] 28銀 18玉 [129] 29金[139] 迄」の解答ですが、この最終手は王手になっていません。Imitator 作品の暗算解答は危険なので、目視による再確認は必須だと思います。

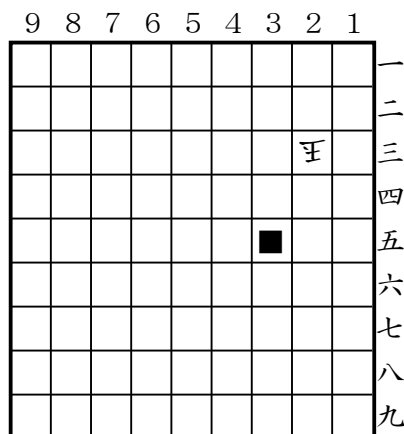
一乗谷酔象さん

金銀の両王手で仕留める。27に効きのある18角がImitatorならではの協力手。



■ 105-2 神無太郎氏作（正解6名）

協力詰5手

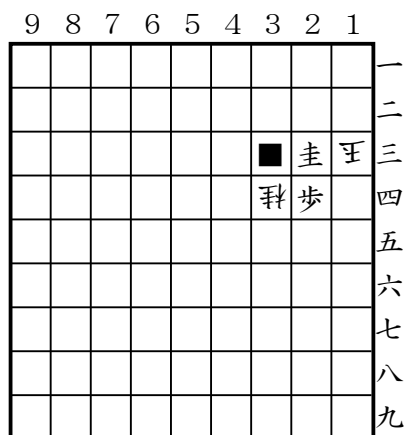


持駒 桂歩
※■:Imitator

【解答】

24歩 34桂 15桂 13玉[125] 23桂成[133]
まで5手

(詰上り)



持駒 なし

【解説】

今度は2手目に注目してください。

これもImitatorへの壁駒を打つ応手ですが、なぜ桂なのでしょう？

前局と同様この意味も最終手で判明します。もし2手目が前に動ける駒だったら、最終手に対し35X[134]の受けがあります。角だと単純に23角[122]と取れてしまうため不詰。何の役にも立たない唯一の駒が桂だったというわけです。

今回の2局は、角と桂という「頭の丸い」駒を主役に据え、最終手で受けを生じないための限定打を行う作品でした。皆さんも、他のルールや他の駒で「役に立たないための」消極的限

定打にチャレンジしてみませんか？

【短評】

変寝夢さん（※無解）

2手目が渋い好手。
意味づけが渋すぎて斬新に感じました。

占魚亭さん

15桂～23桂成を見据えての桂打ち。

はなさかしろうさん

イミテーターは敬遠しがちですが、本問は手が極めて狭いので総当たりでもなんとかなるかとチャレンジしてみました。34への壁桂打ちが最後はぴったりになりました。

たくぼんさん

105-1と同様に気楽に考えていたら痛い目に・・・。
限定壁駒が出てくるとはビックリです。

青木裕一さん（※105-1、105-2 両題への短評）

簡素すぎて手が付けづらいけど、5手なので何とかできました。
壁駒が限定できているのはすごいです。

一乗谷酔象さん

1に近い34に所に邪魔桂を発生させるため先に歩を打つ。

■ 105-3 変寝夢氏作（正解7名）

All-in-Shogi協力詰5手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							王		一
							歩		二
							馬		三
							皇		四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒なし

【ルール】

• All-in-Shogi

双方とも、自分の手番のときに相手の駒を動かすこともできる。敵玉を王手がかかる位置に動かしてもいいし、敵の持駒を打ってもいい。ただし、双方とも1手前の局面に戻すような着手は禁手とする。

(WFP1号、WFP122号参照)。

【解答】

12玉 24馬 15香 14馬 13玉 まで5手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
							歩		二
								王	三
								馬	四
								香	五
									六
									七
									八
									九

持駒なし

【作者のコメント】

後手番の指し手で、先手の持駒が増えることがあります。

【解説】

本作品展初登場の All-in-Shogi。初形も「1」で、とりあえず手を出してみたいくなる作品です。

All-in-Shogiは「All-in-Chess」の翻案で、相手の駒も動かせるのが特徴です。中立駒と似た印象を受けるかもしれませんが、どちらからも動かせる駒が新規に追加されたわけではなく、あくまで既存の駒がどちらからも動かせる状態になるというルールです。

昔のカピタン誌に「相手の駒も動かせる」というルールの作品が発表されたことがあります（長くなるので、これについては第107回WFP作品展の出題稿で述べます）が、この時のルールと All-in-Shogiには相手玉を動かして王手できるかどうかで微妙な差異があるようです。

また、All-in-Shogiの重要な特徴として「1手前の局面に戻すような着手は禁手とする」という補助ルールがあります。これは主に対抗系ルールで千日手による逃れを防ぐことを目的とした規定です。

物語で脇役が主役を食うことがあります、このルールでも脇役だったはずの補助ルールが主役になることが、起こるかもしれません。

協力系ルールだとこの規定がなくても千日手の心配はあまりないのですが、直前の局面に戻す手を禁止すると、今まで「詰」とみなされなかった局面が「詰」になることがあります。見慣れない「詰」が登場することから、単なる千日手防止ではなく、その規定そのものを積極的に活用したくなるのは自然な発想でしょう。

そこで本局の詰上りを見てください。

通常であれば玉が 12 に逃げられるので、この局面は詰んでいませんが、この場合は 12 玉とすると直前の局面に戻ってしまうため、それは指せず、この状態で詰みとなります。何とも奇妙な詰上りですね。

このルールでは王手駒を動かす受けにも注意しないといけません、馬をどこに動かしても王手が解除できないことも確認してください。馬を動かす手を読むと、4 手目 15 香の限定打の意味も自然に判明します。香をこれより遠くに打つと、最終手に対し「15 馬」の逃れが生じてしまうのです。

また作者のコメントにもあるように、この作品にはもう一つ狙いがあります。

それは自分の手番で相手の持駒が増えるという現象が起こることです。本局の 2 手目 24 馬がその手で、攻方の駒を動かして受方の駒を取らせることにより、受方の手番なのに攻方の持駒が増えています。この現象も中立駒に感触は似ていますが、駒の本来の所属がはっきりしている分、使い方が分かりやすく感じます。

しかし、これには少し問題がありました。

All-in-Shogi のルールは WFP122 号で説明されているわけですが、どこにも駒取りに関する記述がありません。相手番側の駒を動かして駒を取らせることが可能であるかどうか未定義ですし、取った駒の扱いも未定義です。後者については、All-in-Chess も参考になりません。チェスには持駒制度がないためです。

ルール解釈による疑義が生じるのを避けるため、以降の出題ではルール説明に以下の 2 点を補足として付けるようにしたいと思います。

- 1) 相手側の駒を動かすとき、自分側の駒を取らせることはできるが、相手側の駒を取らせることはできない
- 2) 相手側の駒で自分側の駒を取らせたとき、その駒は相手側の持駒となる

フェアリーはルールを変更した詰将棋ですから、ルール説明の抜け・誤り・曖昧さは極力避けねばなりません。多少くどくなっても、説明不足より説明過多を選びたいと思います。

【短評】

占魚亭さん

「1 手前の局面に戻す着手は禁止」というルールは強力ですね。

はなさかしろうさん

なるほど、この形が基本のひとつになるんですね。105-7(c)の中立駒を使った詰み形と通じるものがあると思います。

園城寺怜さん

後手の手番で先手が駒を補充できる、というのに少し新味を感じました。

たくぼんさん（※誤解）

1 手前に戻す手は禁手という部分がちょっとこれまでのルールと違うので見え難い。慣れですかね。

☆たくぼん氏は「12 玉 24 馬 13 香 21 玉 12 玉 迄」の解答。この手順の最終手は、13 香を打った局面と同じなので、「双方とも 1 手前の局面に戻すような着手は禁手とする」という規定に反します。「双方とも」というさりげない一言ですが、要注意ですね。

テイエムガンバさん

All-In-Shogi の問題としては良作ですが、どうしても玉を移動させて詰める、という問題になってしまうのはルール上やむを得ないか。

一乗谷酔象さん

WFP122 号の解説が参考になりました。

■ 105-4 変寝夢氏作 (正解5名)

All-in-Shogi協力自玉詰 6手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

								王	一
								王	二
									三
				金		香		王	四
									五
									六
									七
									八
									九

攻方持駒 なし
受方持駒 なし

【ルール】

• 協力自玉詰

先後協力して最短手数で攻方玉を詰める。

【解答】

21 玉 22 金 32 金 22 馬 12 馬 23 玉
まで 6手

(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

								王	一
							王	金	二
							王		三
							香		四
									五
									六
									七
									八
									九

攻方持駒 なし
受方持駒 なし

【作者のコメント】

馬と金を動かして、止めの玉移動。

【解説】

前局で All-in-Shogi の基本パターンが分かったので、それを本局にも適用することを考えましょう。受方の手番で 14 王を 23 王と突っ込ませればいかにも詰みそうですね。

でも初手から 21 玉、23 王と進めたのでは、詰みになりません。11 金という受けが残っているからです。

馬を活用するなら 21 玉、22 馬、33 馬、23 金、34 金、24 馬などという手順もありますが、これも馬をどこかに動かせば受かります。

王手駒を逃がす受けを防ぐにはどうするか……こう考えると本命である「両王手」の手筋が見えてきます。あらかじめ両王手の形を作っておいて、受方の手番で自玉をそこに運んで貰うわけですね。

本局には受方持駒制限があるので、両王手に使えるのは金と馬のみ。自玉が 23 に来た時、14 には戻れないので逃げ道は 34 であることから、馬を 12 に置き、その邪魔になる金には 32 に引っ越しして貰います。それが2手目から5手目までの一連の手順です。こうして準備万端整えてから、14 王を 23 に突っ込ませれば、めでたく両王手の詰みとなるわけです。

解答者の短評にもありますが、自玉を合駒代わりにし、自ら死地に飛び込む着手にはリパブリカンと似た味わいがあります。中立駒、リパブリカン、All-in-Shogi には実現出来る手順に共通した特徴があり、作者が意識的にしろ無意識的にしろ、そういった手順を好み、そのようなルールを選んでいるのだと思います。

【短評】

占魚亭さん

2手目 22 馬～24 馬までの紛れに嵌まりました。

はなさかしろうさん

こちらも投身。
リパブリカン協力自玉詰のようですね。

井上順一さん (※誤解)

14 王が動くことはないので最終手は 24 金か 24 馬しかなさそうだが、そこに至る手順が見えにくい。受方の駒しか動かないのがおもしろい。

☆井上氏は「21 玉 22 馬 33 馬 23 金 34 金 24 馬 まで」の解答。これは最終手に馬を逃がす受けがあります。

園城寺怜さん

面白い詰め上がり。

たくぼんさん (※誤解)

面白いやりとりだと思います。
慣れですかね。

☆たくぼん氏は「21 玉 23 金 34 金 22 馬 12 馬 23 王 迄」の解答。これは最終手に 11 馬とする受けがあります。テイエムガンバ氏と一乗谷酔象氏も同じ手順の解答でした。

テイエムガンバさん (※誤解)

44 馬と 12 金の動きが見物。

青木裕一さん (※105-3、105-4 両題への短評)

玉の退路がある詰上りになかなか気付かなかった。詰めにくさで言ったら、中立駒もほとんど同じなので、1 手前に戻せない制限は不要では？

☆同感です。中立駒に「1 手前に戻せない」というルールが付いていたなら、中立駒特有の手筋がいくつか消えていたでしょう。Messigny の場合もそうですが、この種の補助ルールは常に付加するより、分離して、必要時のみ付加する方が良いと思います。

一乗谷酔象さん (※誤解)

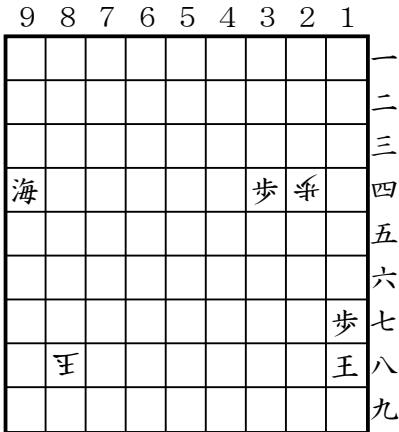
金と馬が入れ替わる不思議。

☆今回の 2 作は誤解が多かったのですが、これは一概に解答者のミスとは言えません。例題不足も原因の一つだと思います。WFP122 号の記事では、もう少し多くの例題を使って、代表的な基本手筋の紹介と、注意事項の強調を行うべきだったと思います。WFP 誌にはページ数制限がないので、説明がいくら多くても文句は言われません。



■ 105-5 変寝夢氏作 (正解 6 名)

協力白玉詰 24 手

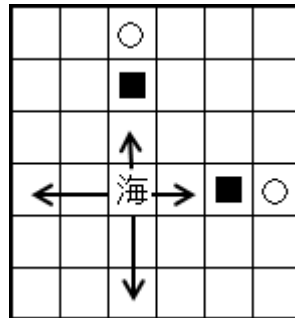


攻方持駒 なし
受方持駒 なし
※海:Triton

【ルール】

• Triton (海)

フェアリーチェスの Triton (海)。
駒を取らないときは Rook の動き。駒を取るときは Rook-Locust の動き (Rook の利きの方向にある敵駒を跳び越えその 1 つ先の空きマスに着地し、跳び越えた敵駒を取る)。



(矢印が駒を取らない時の動き。○が駒を取る時の移動先。■は敵駒。これを取って○に行く。■が味方の駒だったり、○の地点が埋まっていたりするとそこには行けない。)

【解答】

84 海 77 玉 74 海 66 玉 64 海 55 玉
54 海 44 玉 33 歩成 35 玉 55 海 25 歩
34 と 36 玉 56 海 26 歩 35 と 37 玉
57 海 27 歩生 36 と 38 玉 58 海 28 歩成
まで 24 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
						と			六
								歩	七
			海		王	ス	王		八
									九

攻方持駒 なし

受方持駒 なし

【作者のコメント】

浪漫派にはほど遠いですわ。

【解説】

筆者は新しいフェアリー駒に慣れたいとき、少ない駒数で追い趣向（あるいは送り趣向）を作ることになっています。面白い作品ができるかどうかは別ですが、趣向部で駒の基本性能を把握することができますし、序と収束を付ける時に思わぬ手筋が飛び出してきたりするからです。

もちろん、そうした作品を解くことも新しい駒に慣れ親しむ有力な手段です。本局は Triton（海）を使った2種の追い趣向で構成されており、新しい駒に慣れるのに適した作品です。

Triton の特徴の一つは駒を取らなくても動けることです。動きは飛の動きで、この点は中国象棋の Pao（包）に似ています。ただ、Pao が跳んだ先の駒を取るのに対し、Triton の駒の取り方は Locust 方式で、跳躍台の駒を取ります。

本局で玉は盤端から離れた場所に置かれており、玉を跳躍台とする Locust 方式の王手が掛けられます。従って Triton 単騎で玉を追い回すことが可能です。

追い回して向かう先は駒が多い右辺です。

ここには、受方の 24 歩が置いてあり、これを動かして自玉を詰めるというストーリーが想定できます。

問題は Triton を縦に使うか横に使うか。

まず縦に使ってみましょう。すると、98 海 77 玉 … 95 海 44 玉と進んで、次の 94 海が王手になりません。34 が攻方の歩で埋まっているた

め跳べないので。

似ているようでも、Triton を横に使うと最初から四段目にいる状態が維持されるので、44 玉に対して 33 歩成とすることで、王手を継続することができます。まるで開き王手みたいな感覚ですね。

この手を境に縦追いが始まります。

まずは Triton の王手に対し、着地先を埋める歩で応対。こちらはまるで移動合のような感覚ですね。このままで Triton だけでは王手を続けられないので、先程作った「と金」を活用して玉を移動させ、再び Triton で王手をできる状態にします。玉を含め4枚の駒が一緒に移動する「夏木立型趣向」です。

収束は特になく、そのまま歩を 28 まで進めて成れば自然に自玉は詰みになります。Triton ではこのと金は取れません。うっかり歩を 27 で成ると詰まない状態で逆王手が掛かってしまうので、そこだけ注意すれば間違えることはないでしょう。

本局での Triton は王手を掛けているだけで、実際に駒を取る手は作意表面には登場しません。Marine Piece の特徴は駒取りとそうでない時の動きの違いですから、今度は駒を取る手が作意表面に出てくる作品を見たいですね。

【短評】

はなさかしろうさん

ピタゴラ装置みたい。楽しく癒されました。

井上順一さん

詰上りから逆算。海の横移動から縦移動に変わるところが、うまくできている。

園城寺怜さん

スッキリ解ける綺麗な趣向でした。

たくぼんさん

海の動きに戸惑いましたが流れが見えれば楽しめる趣向でした。

青木裕一さん

Marine Piece の手筋に慣れるのにちょうどいいくるくる手順。

■ 105-6 Pontamon 氏作 (正解 4 名) ※余詰

推理将棋

「13 手目に 44 地点の着手で詰めたよ」
 「何かスッキリしている棋譜だね。地点と駒種だけでは珍しい」
 「同じ駒の連続着手があったのは玉だけというのも珍しいかな」

[条件]

- 1) 13 手目の 44 地点の着手で詰んだ
- 2) 棋譜は、地点と駒種だけの表記だった ※1
- 3) 同じ駒の連続着手があったのは玉だけ ※2

※1 棋譜に、同、左、右、成、不成などが付かない

※2 玉以外の駒は連続でなければ複数回の着手可

【ルール】

• 推理将棋

将棋についての会話をヒントに将棋の指し手を復元する。

【解答】

[作意]

16 歩 34 歩 26 歩 66 角 15 歩 42 玉
 66 歩 33 玉 17 角 24 玉 25 歩 15 玉
 44 角 まで 13 手

(詰上り)

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	駒	香		香	駒	科	皇		一
		飛								二
歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩		三
						角	歩			四
								歩	王	五
			歩							六
歩	歩	歩		歩	歩	歩				七
	角						飛			八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香		九

持駒 なし

[余詰の例] (※はなさかしろう氏指摘)

26 歩 54 歩 76 歩 42 飛 25 歩 55 歩
 26 飛 62 玉 55 角 52 玉 56 飛 12 香
 44 角 まで 13 手

[修正] (玉の 4 連続着手に関する条件追加)

推理将棋

「13 手目に 44 地点の着手で詰めたよ」
 「何かスッキリしている棋譜だね。地点と駒種だけでは珍しい」
 「玉の手は 4 手連続だけで、他の駒の連続着手がなかったのも珍しいかな」

[条件]

- 1) 13 手目の 44 地点の着手で詰んだ
- 2) 棋譜は、地点と駒種だけの表記だった ※1
- 3) 玉の手は 4 手連続だけで、他の駒の連続着手はなかった ※2

※1 棋譜に、同、左、右、成、不成などが付かない

※2 玉以外の駒は連続でなければ複数回の着手可

【作者のコメント】 (※投稿時)

今回の投稿に際して気付いたのですが、WFP へは空き王手の作品を多く投稿している気がします。今回も空き王手作品です。

本作の手筋では、16 の角を 38 角とする条件だと空き王手がバレバレ。あとは 17 の角を 35 角か 44 角とするか、18 の角を 36 角、45 角、54 角とする手順があるので、空き王手を隠し易くて、角の駒種も隠せる地点があればベスト。

最終手を 5 段目着手にすると、35 金、35 銀、45 金、45 桂までの詰があるので駒種の角を明かす必要がある。

54 地点だと

- ▲76 歩、△34 歩、▲77 角、△44 角、
- ▲16 歩、△62 玉、▲44 角、△72 玉、
- ▲36 角、△54 歩、▲15 歩、△64 歩、
- ▲54 角

までの余詰がある。

最終手が 44 地点だと、玉着手が 1 回だけで玉以外に連続着手がある

- ▲26 歩、△54 歩、▲25 歩、△55 歩、
- ▲26 飛、△56 歩、▲16 歩、△62 玉、
- ▲56 飛、△44 歩、▲76 歩、△72 飛、
- ▲44 角

や玉着手が不連続な

- ▲56 歩、△54 歩、▲76 歩、△42 飛、
- ▲55 歩、△62 玉、▲58 飛、△55 歩、
- ▲18 香、△52 玉、▲55 角、△51 歩、
- ▲44 角 (これも空き王手)

などの紛れ筋があったのは幸運。

他にも飛の連続着手が入ってしまう

▲26歩、△44歩、▲76歩、△42玉、
▲25歩、△43玉、▲26飛、△52飛、
▲46飛、△42金、▲18香、△32銀、
▲44飛

の紛れ筋もあるので、これらのような自陣玉を
考えていると端の筋は思い浮かびにくいはず。
でも、地点と駒種だけの棋譜の条件があると、
中段玉を疑って見破られてしまうかな。

【解説】

棋譜に特殊表記が一切ないという状況を利用した
推理将棋。特に影響が大きいのが「成」「不成」
がないことと、「同」がないことです。

「同」が使えないことは、主に手順の限定に役立っ
ています。条件3)では玉以外の連続着手が禁じら
れており、これと合わせて手順の選択肢を大幅に
狭めています。

具体的に説明しましょう。作意の初手は16歩
ですが、仮に初手26歩とすると、以下34歩、
16歩、66角、同歩となってしまいます。玉以外
の連続着手を禁じる条件との合わせ技で手順前後
を防いでいるわけです。

ただ、もっと大きな影響があるのは「成」「不成」
が使えないことです。成駒が使えないだけでなく、
成れる駒が相手陣に入る手も指せません。そのた
め詰める形は限られます。

ここで発想の転換が求められます。

44に動いた駒で直接王手するのではなく、開き
王手を使うことです。でも、これは作者の狙いの
一つに過ぎません。

作者はもう一つトリックを仕込んでいました。
それは開き王手を行うのが、最初から先手に所
属している駒ではなく、元々は後手に所属してい
た駒を入手して、それを開き王手に使うのが謎
を解く鍵だったのです。

開き王手だけなら比較的気付き易いと思いき
ますが、先手の角ではなく後手の角で開き王手
をする手順が作者の真の狙いだったのです。

ただ、このような野心的な手順に比べ、条件が
緩すぎました。本作には出題早々余詰が指摘さ
れ、その後も複数の余詰筋が発見されました。

最初に指摘された余詰は飛を軸とする筋。

(はなさかしろう氏指摘)

この手は一応作者も読んでいましたが、条件
3)で回避できるという読みが甘く、回避しきれ
ていなかったのです。

修正は「玉の4連続着手」を条件に加えると
いうもの。余詰の中には「玉の5連続着手」を
含む解があるので、「ちょうど4連続」とするこ
とによって、それも防ごうという意図です。

「玉の5連続着手」を含む余詰は、はなさか
しろう氏の指摘したもので、39銀が16まで出
張ってきて、玉が26地点で詰むという面白い
手順です。いつか、これを作意に仕立直した推
理将棋が見られるかもしれません。

【短評】

はなさかしろうさん(※余詰解)

なんとか作意を得たかったのですが、ギブア
ップ。見つけた詰み筋はどれも非限定が除け
そうもありません。

「連続」は先手or後手の一方のみでカウント
する場合と先手後手通算でカウントする場合
があることと、連続=2連続のみなのか、
連続=2連続、3連続、4連続…なのか、とい
うことで、解釈の揺れが生じるので、解図中
そのことも気になりました。

「駒」も木片としての駒なのか(成っても同
一性維持、駒台に複数載ると同一性の扱いは
解釈に揺れがありそう)、駒種なのか、こちら
も条件付けの際に気になるところですが、本
問では「駒」と「駒種」を使い分けているの
で、条件3)では「木片としての駒」を意図し
ていると思われます。となると、連続の扱い
も本問では先手or後手の一方のみでカウン
トするのが自然ではあるのですが……いず
れにせよ、文言による条件付けが解釈に揺れ
を生じやすいことが、推理将棋になかなか手
を出していただけない理由のひとつかな、と
思ったりしています。

さて、詰み筋ですが：

- ① ▲2六歩 △5四歩 ▲7六歩 △4二飛
▲2五歩 △5五歩 ▲2六飛 △6二玉
▲5五角 △5二玉 ▲5六飛 △***
▲4四角まで
- ② ▲2六歩 △5四歩 ▲7六歩 △4四歩
▲2五歩 △5五歩 ▲2六飛 △7二銀
▲5五角 △5二玉 ▲5六飛 △6二玉

▲ 4 四角まで

③ ▲ 6 六歩 △ 3 四歩 ▲ 7 六歩 △ 6 六角

▲ 6 八飛 △ 5 四歩 ▲ 6 六角 △ 5 二玉

▲ 7 五歩 △ 5 三玉 ▲ 8 六角 △ 6 四玉

▲ 4 四角まで

④ ▲ 3 八銀 △ 4 四歩 ▲ 2 六歩 △ 5 二玉

▲ 2 七銀 △ 4 三玉 ▲ 7 六歩 △ 3 四玉

▲ 1 六銀 △ 3 五玉 ▲ 1 八飛 △ 2 六玉

▲ 4 四角まで

③の序は裏推理的に本命で、7 手目は飛で取りたいところですが、詰みを見つけられませんでした。75 歩を突く代わりに 56 角と打ってしまえば先手は 1 手余ります。私の推し順は④で、ほとぼりが冷めたところに上手く条件を付ければ出題できるのではないかと考えています。しかし、それにしても、上記の順はいずれも明らかに非限定。とすると、44 歩あるいは 44 飛までの詰みのあたりで、なにか見逃しているのでしょうか。

☆早々の余詰指摘、ありがとうございました。更に追加の余詰筋も指摘していただき、重ねて感謝致します。③の解も面白いですが、④の解は更に面白いですね。「玉の 5 連続着手」を含む解には以下のような筋もあるので、本作の条件を「玉の 5 連続着手」にただけでは推理将棋として成立しませんが、巧い条件設定を期待します。

[参考] 玉の 5 連続着手を含む解

16 歩 44 歩 76 歩 42 玉 44 角 43 玉

36 歩 34 玉 17 角 25 玉 37 桂 16 玉

44 角 まで 13 手

たくぼんさん (※余詰解)

26 歩 54 歩 76 歩 42 飛 25 歩 55 歩 26 飛

52(62)玉 55 角 62(52)玉 56 飛 * 44 角 迄

13 手 *は条件に合う着手 (14 歩など)

余詰でしょうか。

Pontamon さん

難易度を欲張ったためにボロボロ。

一乗谷酔象さん (※余詰解)

解 1

46 歩 34 歩 76 歩 66 角 45 歩 64 歩

66 角 62 玉 36 角 63 玉 77 桂 54 玉

44 歩 まで 13 手.

・ 64 歩のタイミング(6 手目、8 手目)、玉の経路(52 玉か 62 玉)、36 角と 77 桂の順序の非限定あり。

解 2

66 歩 34 歩 76 歩 66 角 68 飛 54 歩

66 角 42 玉 96 角 53 玉 16 歩 64 玉

44 角 まで 13 手.

・ 先手 1 手余り(上記では 11 手目)、玉の経路(42 玉か 52 玉か 62 玉)、角の打場所(56,85,96)、54 歩のタイミング(6 手目、8 手目)他、非限定多数。

連続着手禁と"同"禁の縛りが厳しいかと思っただが 2 系統の解があった。いずれも非限定あるので作意は別手順だろうか。

☆ご覧の通り余詰解は多数寄せられました。作者以外、作意解はありませんでした。後手の角を先手が開き王手に利用する手順は、盲点だったようです。ただ、最初から「玉の 4 連続着手」を条件に加えていたら、容易に解けてしまったでしょうから、推理将棋の条件設定というのは本当に難しいと思います。



■ 105-7 はなさかしろう氏作
(正解 a) 8 名、b) 8 名、c) 1 名 (実質正解者なし))

推理将棋×中立駒

(a)、(b)、(c)それぞれについて、中立駒にした駒と詰みまでの手順を推理してください。

- (a) ・ 初形配置のうち 3 枚を中立駒にした合法局面から 2 手で詰んだ
 - ・ 4 筋への着手はなかった
- (b) ・ 初形配置のうち 3 枚を中立駒にした合法局面から 3 手で詰んだ
 - ・ 不成があった
- (c) ・ 初形配置のうち 3 枚を中立駒にした合法局面から 6 手で詰んだ
 - ・ 棋譜表記に「寄」が 2 回と「上」が 1 回あった

【ルール】

・ 中立駒 (「**▲**」あるいは「n 駒」)
どちらの手番でも動かせる駒。

(補足)

横向きの字か横に n を付加して表記。

取り方や動かし方は以下の細則に従う

- 1) 中立駒の動きは現手番の駒としての動きとなる (利きが非対称な駒の場合に要注意)
- 2) 中立駒は現手番の駒として成れる場合のみ、成ることができる
- 3) 中立駒はどちらの手番でも取ることができ、持駒になる。この時、所属は取った側の持駒だが中立性は失わず、再び盤に戻ったときには中立駒として振舞う。
- 4) 中立駒は現手番側の駒を取れない。相手側の駒や、中立駒は取れる。
- 5) 二歩禁が適用される。手番を問わず、中立駒の歩や通常の歩がある筋に、更に中立駒の歩を打つことはできない。
- 6) 中立駒は行き所ない駒にならない。
- 7) 中立駒でも 自玉への王手は反則。自玉への王手となっているかどうかの判定は、現手番が終了し、相手側が着手する前に行う。

【解答】

a) 中立駒 : 28 飛、69 金、79 銀

(初形)

持駒 なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	銀	金	王	金	銀	科	皇	一
	飛						角		二
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	三
									四
									五
									六
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
	角						銀		八
香	桂	▲	▲	玉	金	銀	桂	香	九

持駒 なし

69 玉 68n 銀成 まで 2 手
(詰上り)

持駒 : なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	銀	金	王	金	銀	科	皇	一
	飛						角		二
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	三
									四
									五
									六
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
	角		▲				銀		八
香	桂		玉		金	銀	桂	香	九

持駒 n 金

b) 中立駒 : 22 角、71 銀、82 飛
(初形)

持駒 : なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	▲	▲	王	▲	▲	科	皇	一
	銀						飛		二
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	三
									四
									五
									六
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
	角						飛		八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

持駒 なし

33n 角生 42n 飛 62n 飛成 まで 3 手

(詰上り)

持駒：なし

9 8 7 6 5 4 3 2 1

皇	科	銀	金	王	金	銀	科	皇	一
			龍						二
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	三
									四
									五
									六
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
	角						飛		八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

持駒 歩

c) 中立駒：22 角、49 金、88 角
(初形)

持駒：なし

9 8 7 6 5 4 3 2 1

皇	科	銀	金	王	金	銀	科	皇	一
	飛						歩		二
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	三
									四
									五
									六
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
	歩						飛		八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

持駒：なし

58 玉 77n 角成 33n 角成 66n 馬上
76n 馬寄 67n 馬寄 まで 6 手

(詰上り)

持駒 歩2

9 8 7 6 5 4 3 2 1

皇	科	銀	金	王	金	銀	科	皇	一
	飛								二
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	三
									四
									五
		歩							六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
			玉				飛		八
香	桂	銀	金		金	銀	桂	香	九

持駒 歩

【作者のコメント及び解説】

本問は 3 題一組で、(a)、(b)が詰みに至る将棋の最短手数に関するもの、(c)が条件（寄 2 回 + 上 1 回（棋譜表記））を満たす詰みに至る最短手数に関するものですが、推理将棋として見れば (a)と(b)が練習問題、(c)が本題です。

まず、(a)と(b)の前に、将棋の最短手数ですが、本問の方法で中立駒を導入しても 0 手、1 手の詰みはありません。初形配置では桂で王手をかけることができず、その他の駒で王手をかけられる方向の全ての地点（=玉の利きのある地点）には金が利いており、金には玉以外の駒が利いていないためです。一段目に並んだ金-玉-金が他の駒の利きから独立している、というのは将棋の初形配置の特徴のひとつで、短手数で詰みを実現するにはこの王宮のような金-玉-金の守りをいかに崩すかが主眼になってきます。

以上より導かれる将棋の最短手数は、先手玉を詰ます場合 2 手、後手玉を詰ます場合は 3 手ですが、通常の将棋では実現できず、それぞれ 8 手、7 手を要します。しかし、中立駒を導入すると 2 手、3 手が共に実現可能ですので、それぞれ(a)、(b)として問題にしました。

更に、中立駒を導入することで他にも短手数の詰みが生じます。特に 4 手以上では多様な詰手順があるのですが、条件自体が手数を要する場合は簡単には詰みません。詳細は検討の項に記載しますが、例えば(c)の場合、詰みとは無関係に条件（寄 2 回 + 上 1 回（棋譜表記））のみを実現しようとしても 5 手を要します。これも将棋の初形配置に由来する理由があり、中立駒を導入してもやはり 5 手必要で、実現できる形は限られており、いずれも詰みません。従って最短手数は 6 手なのですが、通常の将棋では実現できず、10 手を要します。しかし、中立駒を導入すると最短の 6 手可以实现できる、というのが(c)の言い分です。

《検討》

(a)

- ・初形配置のうち 3 枚を中立駒にした合法局面から 2 手で詰んだ
- ・4 筋への着手はなかった

玉金が通常駒のみの場合、2手で詰む形はありませんが、49金または69金が中立駒ならば初手に玉で取ることで一気に守りが弱体化します。作意解は以下の通りです。

中立駒：28飛、69金、79銀
手順：69玉、68n銀成まで

中立駒による頭金の形（龍は不詰）。歩3枚が中立成銀の頭を塞いでおり、詰みが成立します。条件を「6筋への着手はなかった」にしても同様の手順で詰みますが、別途51玉を中立玉にする余詰が発生します。

中立駒：51玉、***、***
手順：41n玉、(42飛 or 32銀)まで

このように、中立玉は他に中立駒がなくても2手で詰みますが、前項に書いた理由で中立玉は使いたくなかったので作意の順を選びました。

(b)

- ・初形配置のうち3枚を中立駒にした合法局面から3手で詰んだ
- ・不成があった

後手の金は中立駒にできないので、通常駒の玉頭から2手で利きをなくすことができず、頭金形は成立しません。桂での吊るし詰めは4手からなので手数不足です。しかし、後手玉を中立玉にすると、例えば以下のように3手の詰みが生じます。

中立駒：51玉、71銀、82飛
手順：61n玉、***、62金まで

最後の62金で62n銀成は不可（自玉を王手状態にする反則手）で、62金と打って詰みなのですが、この形は71銀を中立駒にしておかないと詰みならず、中立駒3枚を要することになります。条件にある不成の手は2手目に後手が指せばいいのですが、中立駒3枚を後手陣内で使い果たし、先手陣内に無いため指せません。

ということで、残る手段は両王手。作意解は以下の通りです。

中立駒：22角、71銀、82飛

手順：33n角不成、42n飛、62n飛成まで

この両王手の筋は非中立の後手玉に対する最短の詰め手順であり、3手の詰みは他の方法では実現できないと思います。また、通常の推理将棋では両王手の詰みは確か最短9手（『詰将棋おもちゃ箱』の推理将棋4-3（ミニベロさん作））ですが、中立駒3枚を導入すると3手で実現できる、ということでもあります。

(c)

- ・初形配置のうち3枚を中立駒にした合法局面から6手で詰んだ
- ・棋譜表記に「寄」が2回と「上」が1回あった

棋譜表記の寄や上がつく着手は、同種類同所属で異なる段にいる駒の利きが重複しているという状況で可能になります。初形配置では同種類同所属の駒は同じ段にありますので、寄や上を指すには準備動作が必要です。このため、通常のルールでは、詰みとは無関係に条件（寄2回＋上1回（棋譜表記））のみを実現しようとしても5手を要します。以下に一例をあげます。

68金、52金右、58金寄、42金寄、48金上まで

上記の理由は初形配置に由来するため、中立駒を導入しても基本的には解消されません。ただ、準備動作を1手だけで済ますことは考えられ、49金と69金を中立金にすれば、48n金、58n金寄、68n金寄、78n金上、というように4手で実現できそうですが、王手放置の禁手が含まれてしまいます。但し、中立駒を導入すると、同種類同所属で異なる段にいる駒の利きが重複しているという状況を角でも1手で準備できるようになるため、5手で以下のようなバリエーションが増えます。

中立駒：22角、88角
手順：48金、34歩、58金寄、77n角上成、68金寄まで

しかし、やはり5手必要で、実現できる形は限られており、いずれも詰みません。

従って（寄2回＋上1回（棋譜表記））での詰

みの実現には6手以上を要することがわかります。通常の将棋での最小手数も10手で、例えば以下の手順です。

76歩、34歩、68金、88角成、69玉、98角、58金寄、89角成、59金寄、79馬上まで

9手以下では不可能なことを原理的に示すことは難しそうですが、9手の全手順の中に条件を満たす手順がないことは確認しました。

さて、では本題の中立駒を導入した場合を考えます。既出の金を主体にした5手の手順に1手加えるのは、例えば以下のように詰みには至りません。

中立駒：22角、28飛、39銀、88角
手順：48金、34歩、58金寄、77n角上成、68金寄、48n銀成までは38n成銀で逃れ

しかし、6手にしたことで、準備動作に3手を要する馬を使うことができます。作意解は以下の通りです。

中立駒：22角、49金、88角
手順：58玉、77n角成、33n角成、66n馬上、76n馬寄、67n馬寄まで

中立駒による王手は王手をかけている駒を避けてしまえるので詰ましにくいのですが、走り駒による同軸からの後押しがあれば詰みに使えます。また、馬の準備動作のうちの1手は王手回避なのですが、これを利用すると中立金で退路封鎖が可能です。この玉金を角馬で貫く詰み形は通常の推理将棋では『詰将棋おもちゃ箱』の推理将棋74-3に作例がありますが、11手を要してようやく実現しています。

【解説】

第103回WFP作品展から続く、初形入替推理将棋シリーズ。今回は通常駒から中立駒へ変更するという大胆な問題です。

問題は3題セットで、初形の3枚を「中立駒化」し、条件を満たす初形と手順を求めよというもの。ただし、中立駒への入替えには一定の制限が付いています。出題時の作者の説明を再

度掲載しましょう。

共通する設問の枠組みは以下の通りです。

- 1)初形配置に駒を並べる。
- 2)条件に定める枚数の駒を中立駒にする。但し、局面が非合法になるような中立駒への変更は不可。局面が非合法になる理由には二歩と王手放置があり、具体的には、全ての歩、41金、61金、59玉は中立駒に変更できない。
- 3)推理将棋同様に対局をシミュレートし、条件を満たすような中立駒への変更駒と対局の手順(棋譜)を推理する。通常の推理将棋同様、対局過程での王手義務はなく、詰み判定は対局ルールのみで則って行う(条件はあくまで詰みまでの手順に対するものであり、詰み判定を束縛しない)。

二歩禁は中立駒のルールから由来する自然な制約ですし、王手放置の禁止も手番との関連から来る自然なルール設定です。

注意しないといけないのは、合法局面の条件に「逆算可能であること」は要求されていないことです。

例えば、51玉を中立駒にすると、逆算のできない局面になりますが、これは非合法局面ではなく、単に不詰なだけです。(紛れに関する作者自身の解説をご覧ください。)

フェアリーで、特定の局面が合法かどうかは、「ルール設定による」としか言えません。例えば、飛を3枚使った作品は普通詰将棋なら「非合法」ですが、非標準駒数で飛を3枚使うよう定義されたルールなら合法になります。

本作品の合法・非合法の判定も、余分な概念を持ち込まず、上記のルール設定に沿って行ってください。

さて、中立駒を使うとなると、当然それを利用した詰手順が予想されるわけですが、実際a)b)c)のどれもが中立駒と中立駒が持つ性質を活用しています。(中立駒への入替えが必要なのに、中立駒が活躍しない手順だったら、そちらの方が驚きかもしれません。)

では、具体的に個々の作品を見てみましょう。

a)は頭金(成銀)の詰上り。同n飛は自玉への王手となるので指せません。また、攻方の手番のため王手駒の成銀を67n全と逃がすこともできません。中立駒で詰めることの難しさに、「中立駒は現手番側の駒を取れない」というルールを利用することで対処しているわけです。

また、「4筋への着手はなかった」の条件が、単に左右逆の解(39銀と49金を中立駒にする)を消すだけでなく、51玉を中立駒にする解も防いでいるのも巧妙です。

b)で使われているのは「両王手」。中立駒といえども2枚同時に動かすことはできませんから、中立駒で詰める場合、両王手は最有力の選択肢です。中立駒の両王手では、動いた駒を元の位置に戻す応手に気を付ける必要がありますが、本局では中立飛を成って両王手を掛けることにより、42n飛と戻す手を防いでいます。

「不成があった」の条件は作者自身の解説にある通り51玉を中立駒にする解も防いでいるのですが、推理将棋につきものの非限定防止とってしまいそうです。

c)も中立駒らしい詰上りなのですが、中立駒を使った作品の中でも、極めて珍しい手筋が使われています。王手を掛けている中立駒を逃がすと別の中立駒で王手が掛かる形です。これは詰上り駒余りを避けるため、自玉詰系で使われる手筋(WFP61-2 変寝夢氏作を参照してください)ですが、作例が非常に少ないため、想定するのは困難でしょう。

c)には別の難しさもあります。それは棋譜表記が条件に使われていることです。

そもそも中立駒に標準駒を前提とした棋譜表記の規則を当てはめて良いのかという問題もありますが、とりあえずその議論はさておいて、当てはめる前提で解かねばなりません。

条件は「上」1回と「寄」2回。

「上」1回はともかくとして、「寄」2回はかなり厳しい制約です。

「寄」の表記を使うか、「右」・「左」の表記を使うかはよく迷うのですが、同種の駒が同じ段に並んでいるとき「右」・「左」を使い、段が違うときに「寄」を使います。

問題は「寄」は金(成金)に対して使うものだという先入観に陥りやすいことです。実は馬や龍も「寄」の表記の適用対象なのですが、「寄」

から反射的に「金」を想定してしまうと、もうこの問題は解けません。

「寄」に比べると、「上」は使い方が比較的分かりやすいですね。これもやはり段が違う所にある同種の駒が同一地点に動ける場合に使われる表記で、駒の動きが手番側から見て上の方向であるときに使われます。あくまで「手番側からみて上」なので、中立駒のようにどちらの手番からも動かせる場合は、一層の注意が必要です。

今回の3局のセットのうち、c)には遂に正解者は現れませんでした。希少な詰手筋と、棋譜表記の難しさが要因だと思われそうですが、作意が面白かっただけにこの結果は残念です。c)にチャレンジした方はぜひ感想をお寄せください。また、二玉詰の可能性を匂わせつつ、二玉詰の解がないことについては、賛否が分かれるだろうと思ったのですが、全解者がいなかったためそれも不明です。推理将棋×中立駒という斬新な試み、皆さんはどうお感じになりましたか？

【短評】

変寝夢さん(※a)b)正解)

- a) これは解きにくかった。
今回のシリーズで1番です。
- b) 初手非限定かな、と思ったら不成の条件がありました。

はなさかしろうさん

- a) ルールを整備している時に、初形で先手玉に王手が掛かっているにも非合法ではないと考え得ることに気付き、このシンプルな詰みを見つけました。ルールに疑義が生じる懸念があったので中立玉は紛れ止まりにしましたが、出題時に紙面を割いて綿密にルールを説明していただけたので、中立玉の方を問題にしても良かったかもしれません。
- b) 中立駒を導入すると最短何手で詰むかを考え始めて、最初に思いついた手順です。中立駒の王手で詰ますには両王手は基本のひとつですが、例えば中立駒28飛、88角で、78n飛、97n角成、86n馬、77n飛成、66歩、57n龍の両王手の場合は77龍と戻れば受かってしまうわけで、やはり通常駒の場合よりも条件が厳しくなってい

ます。また、中立玉の 3 手の詰みについては当初は想定していなかったのですが、本問ではこれが紛れで済んだのはラッキーでした。

- c) 当初は「中立駒を導入すれば 7 手未満でも詰む」ことを示すために、2~6 手で詰ます 5 問を作ろうと思ったのですが、中立駒を導入すると 4 手以上は余詰がものすごいことがわかってきて、条件付けに苦慮していました。結局 4~6 手の 3 問はとりあえず諦めたのですが、本問の手順は当初想定していた 6 手の問題の余詰探しの過程で見つけたものです。

「寄」「上」を指すのが金ではない可能性を検討すれば割と素直な手順ですが、無条件で中立駒を導入すると着手が玉方陣のみに偏りがちなところを攻方陣から 1 枚動員できたことと、中立馬の動きと中立金を加えた詰め上がりが好みなことで、本問、私の推し問です。

井上順一さん (※a)b)正解)

- a) 補足説明から、先手金を中立駒にすることが考えられ、試してみたらうまくいった。
b) 詰上りが想定しにくかった。最終手が不成は考えにくいので不成の初手を探した。

園城寺怜さん (※a)b)正解)

(b)の両王手の詰め上がりに面白みを感じました。(c)は時間切れで解けず。無念です。

たくぼんさん (※a)b)正解)

- a) これは簡単でした。
b) 両王手は意外。これはこれで良い作品。
c) 中立駒：41 金 51 玉 61 金か 49 金 69 金 +? で考えましたが・・・ギブアップです。ルールの解説で 41 金、61 金は中立駒に変更できないと明記してありましたが、51 玉を中立駒にすれば可能だと思うのですが違いますか？

☆確かに 41 金や 61 金を単体で中立駒にするのはだめですが、本問の設定では玉も中立駒に出来るので、51 玉も一緒に中立駒にすれば王手放置を回避できますね。後は具体的に条件を満たす手順が得られるかどうかだけです。

テイエムガンバさん (※a)b)正解)

- a) 練習問題だけにすぐ解けた分、これは次の問題も簡単だと思ったのですが、出題者をなめていました。
b) 後手の 41 金と 61 金の無力化がポイントかと考え過ぎ、両王手にすれば問題ないということに気付くまで時間がかかりました。

Pontamon さん (※a)のみ正解)

締め切り 2 時間前から解き出して 1 時間で解けたのでルールを理解できていないのかも。複数解あるので。

☆Pontamon 氏は b)c)にも解答を寄せられましたが、いずれの解も中立駒を逃がす受けがあつて詰んでいませんでした。

一乗谷酔象さん (※a)b)正解)

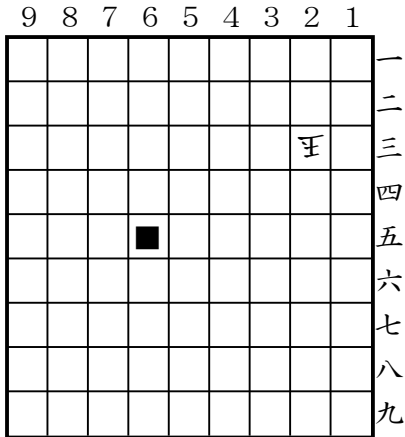
- a) 頭に成銀。味方の歩は取れず逃れられない。4 筋着手ありだと複数解になりますね。
b) ひとり両王手攻撃が炸裂。
c) 無解。6 手中に寄 2 回とは詰形がわからず。

☆短評はありませんが、青木裕一氏の a)への解答は「中立駒：28 飛、59 玉、79 銀 手順：69n 玉、68n 銀成迄」でした。中立駒は手番側の駒を取れないため、69n 玉は指せません。b)への解答は正解でした。



■ 105-8 占魚亭氏作（正解8名）

協力詰 5手



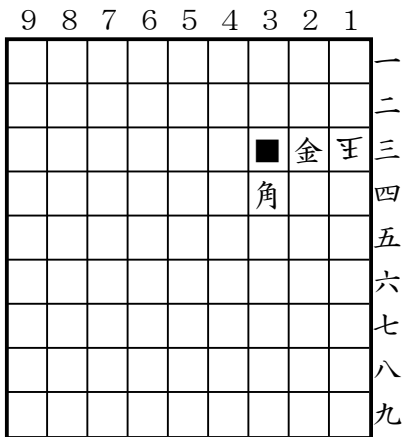
持駒 角

※■:Imitator

【解答】

56角 34金 同角[143] 13玉[133] 23金
まで 5手

(詰上り)



持駒 なし

【作者のコメント】

今回も軽めの易しいものです。
初形以外に見るべきところは……。

【解説】

裸玉+Imitator の簡素図から現れる限定打と限定合。なぜ初手は 56 で 2 手目は 34 なのか、一つずつ確認しましょう。

初手 56 角は玉が盤端に向かって右に動くことを見据えた手です。玉が右に行くと Imitator も自然に角頭に移動し、上部の逃げ道を塞ぐことができます。

次は金合の場所が 34 である意味を確認しま

しょう。

仮に金合の場所が 45 で、作意同様に手順を進めると Imitator の位置は 44 になります。すると、最終手の 23 金に対して Imitator の右横に何か壁駒を打つ受けがあります。合駒の位置が 34 であれば、Imitator の右横は 23 金自身で埋まっているため受けはありません。

Imitator を使った作品では、Imitator を駒の密度の高いところに運ぶ手を中心に読むと早く解けることがあります。「Imitator は盤端に」という格言もありますが、盤端同様、他の駒の近くも Imitator にとっての好位置なのです。

ちなみに初形の Imitator は 54~98 のどこに置いて同様の手順が成立します。中間的な 65 に置いた理由は作者に聞くしかないでしょう。

【短評】

変寝夢さん

影挟一点に絞りました。
読み抜けがあったらショックです。

占魚亭さん

普通すぎてつまらなかったですかねえ。

はなさかしろうさん

ひとつの原理を示しているような、シンプルで美しい問題でした。
着手の選択肢が十分狭く、難しいイミテーターものでもなんとか解図に取り組みました。

園城寺怜さん

13玉 331配置での詰め上がりが予想できたのでなんとか解図。

たくぼんさん

やはり本家は難しい。限定打は見事。

テイエムガンバさん

Imitator 問題の初級者向けとしての良問。

青木裕一さん

角が金の死角に対する壁駒になっているあたりがピッタリ感があります。

一乗谷酔象さん

2手目は普通の合駒。意外だった。

■ 105-9 たくぼん氏作（正解7名）

強欲協力詰 75手

									と	一
								歩	丕	二
				歩	歩	歩	科			三
		歩	歩				銀			四
	香	歩	香	歩	歩	香	香	と		五
				飛	丕	角	角	丕		六
	歩			飛	桂	桂		歩		七
		桂	丕	丕		丕	丕			八
	丕	金		王		全	全	全		九

持駒 なし

【ルール】

・強欲

駒を取る手を優先して着手を選ぶ。

【解答】

- 58 飛 同と 同飛 同玉 55 桂 36 と
- 48 全 同玉 45 桂 26 と右 38 全 同玉
- 28 全 同玉 38 金 17 玉 16 と 同玉
- 27 金 25 玉 26 金 24 玉 15 金 35 玉
- 25 金 45 玉 35 金 55 玉 45 金 65 玉
- 55 金 74 玉 65 金 85 玉 75 金 同玉
- 76 歩 64 玉 65 歩 53 玉 54 歩 43 玉
- 44 歩 54 玉 55 歩 65 玉 66 歩 76 玉
- 77 歩 87 玉 88 歩 同金 同金 同玉
- 99 金 78 玉 89 金 77 玉 78 金 66 玉
- 67 金 55 玉 56 金 44 玉 45 金 33 玉
- 34 金 22 玉 23 金 11 玉 12 金 同玉
- 24 桂 11 玉 12 金 まで 75 手

(詰上り)

									王	一
									金	二
										三
							桂			四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 なし

【作者のコメント】

趣向っぽい手順で難易度は低めです。
それでもくるくるには向いていないですね。

【解説】

たくぼん氏お得意の強欲煙。でも、ただ煙るだけではありません。

強欲詰は手順が単調になりがちですが、複数の駒が取れる局面を手順に織り込み、不要な駒と必要な駒の見極めをさせることで、紛れを増やすことができます。近年、このような手法が発見されたことにより、強欲詰は大きく発展しました。

本局は取る駒の選択を紛れの増加に利用するのではなく、趣向手順の実現に利用したことが特徴です。

その趣向は本局の中盤から始まります。

36 手目の局面をご覧ください。

									と	一
								歩	丕	二
					歩	歩	歩	科		三
			歩							四
		王								五
										六
	歩									七
		桂								八
	丕	金								九

持駒 歩8

89 に落ちている金を拾おうとして、ここからすぐに 76 歩、同玉…と進めると、玉の周囲に駒がなくなり、どんな王手をしてしても「同玉」と取られて不詰になってしまいます。いわば梯子がなくて屋根に登れない状態です。

ここで一工夫。

76 歩に対していきなり「同玉」とするのではなく、「64 玉」から右辺に回り、往復して歩の梯子を作っておくのが巧い手段です。

梯子を作った後、金を入手した 54 手目の局面をご覧ください。

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									と
								歩	と
							歩	科	
					歩				
				歩					
			歩						
		歩							
	王	桂							

持駒 金

ここからは一瀉千里の金追いで右上辺に突き進みます。

そして72手目、何と裸玉が出現しました。

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									王

持駒 金桂

ここから桂、金の順に打って簡単な3手詰。強欲詰で桂は「同玉」とされない特別な駒ですが、本局はこれを利用して煙詰と裸玉が一度に楽しめる作品となっています。

以上の解説では序盤はバツサリ省略してしまいましたが、実は解図の際は、序が一番の難所でした。ここは紛れが豊富にあり、特に46桂をどのタイミングで入れるか悩んだ解答者が多かったようです。

また、中心主題である歩の梯子作りの前にも、金による横追いが入り、趣向手順を楽しむうちに自然に駒が消えていく構成になっています。

ただ、序盤の紛れが本局を少し難しくしているので、作者が「くるくるには向いていない」と判断したのは正しかったと思います。

【短評】

江市滋さん

玉方のと金の残し方が序盤のカギだろう」と思いながら、つつい初手に45桂と取ってしまい、袋小路にはまってしまった……。情けない。

46のと金も簡単にはがせることに気づいて、あとは一気に解決した。

76歩～65玉からの廻り道で、歩を階段状に残すあたりはちょっと面白いが、基本的には通り馴れた道かも知れない。

☆手が途切れないよう歩の階段を作る手順は協力詰の超長編でよく使われる筋ですね。歩が18枚ではなく、もっと多ければ、階段を何度も作り直すような手順も可能だと思います。

変寝夢さん

斜めの歩を一段下げなければならない事に気がついて解決。寿限無からの発想かな？

占魚亭さん

序盤の桂跳ねのタイミングに悩みました。

はなさかしろうさん

何度か行き詰まりましたが、なんとか歩き通しました。崖の上と下をつなげるために、階段を作り直して塗り直す、といった感じの動作が気持ち良かったです。

井上順一さん

収束のための歩の階段を作るところがおもしろい。

青木裕一さん（※無解）

58 飛、同と、同飛、同玉、55 桂、同と、48 成銀、同玉、45 桂、26 と右、38 成銀、同玉、28 成銀、同玉、38 金、17 玉、16 と、同玉、27 金、25 玉、26 金、24 玉、15 金、35 玉、25 金、45 玉、35 金、55 玉、45 金、65 玉、55 金、74 玉、30 手目ぐらいまで分かったのですが、ここから手が続きません。

【総評】

占魚亭さん

All-in-Shogi の感覚に慣れるまで、もう少し時間が必要かも。fmza 対応になったら色々と遊んでみたいですね。

☆All-in-Shogi が fmza に搭載されるかどうかは需要次第でしょうね。合法手生成の処理を作るのに、かなりの手間が掛かることが予想されるので、よほど人気が出ないと見込みは薄いと思います…

園城寺怜さん

遅ばせながら先月号では自作へのたくさんの解答ありがとうございます！（先月は解答送りそびれてしまいすみません。）

今月号も面白い作品が多く解いていて楽しかったです！

それにしても Imitator はやはり難しい…^^;

たくぼんさん

今回は全解いけると思ったんですが、難しいですね。

☆WFP 作品展はルールが多様なので、全解は難しいですね。ルールを一つに絞った「特集」を組む方法もありますが、投稿作をそのまま載せる基本方針はできる限り継続しようと思います。

以上



はなさかしろうさん

いつも楽しく拝読しております。

WFP105-6 はなるほどの手順。15 玉の形は全く思いつきませんでした。連続着手条件で限定されているのも驚きです。

WFP105-7c は思った以上に解きにくかったようです。推理将棋は作るより解く方が難しいことがままあるように思います。

さて、WFP105-7 のたくぼんさんのコメントにある、推理将棋×中立駒で 41 金、51 玉、61 金を中立駒にできるか、ということですが、中

立玉は後手玉でもあるので、先手は初手で 51n 金右 (or 左) と後手玉を取ってしまう状態にあることになり、やはり非合法 (後手が王手放置の反則をした直後の状態を作っている) と考えていました。

この解釈ではまずいでしょうか？

☆105-7 のコメントの件については、まったくご指摘通りです。原稿を書いている時、玉で取る手ばかり読んでいて、玉が取られる手は頭からすっぽり抜けていました。ご指摘ありがとうございます。

本作品展では過去にも中立玉を使った作品が登場していますが、初形で手番側の駒や中立駒で中立玉に王手が掛かっている作品はありません。105-7 についても同様の扱いで良いと思います。(神無七郎)

一乗谷酔象さん

"105-7c) にチャレンジした方はぜひ感想を" とのことですので感想追加します。

■105-7c

解答を見て唸りその手があったかと膝を打ちました。中立駒推理将棋の出題設定、条件、詰形が揃った素晴らしい傑作と思います。

解図では馬寄 2 回と 49n 金を組み合わせる詰型が見えませんでした。

「中立駒 49 金と初手 58 玉」、「n 馬 2 枚型から 66n 馬上～76n 馬寄」、「n 馬 2 枚型から n67n 馬寄」のいずれも解図中に考えていたが初手 58 玉が 1 手パスするような不利感があって結局降参しました。

二玉詰の変化は面白いですが、「寄'''上」との組み合わせるには相性がよくないので深入りはしていません。

■105-9

歩の階段に何故気がつかない。44 歩以下の折り返しで躓きました。

※総評

(解答を見て) 105 回は全解できた可能性もあったかも。もっと早く着手していればなあ・・・

以上

自然数を2つの整数の平方の和で表す(IV)

神無太郎

◆番外

xy 平面上の3点 $A(m, n)$ 、 $B(n, m)$ 、 $C(m+n, m+n)$ に対して、 $AZ < CZ < BZ$ となるような y 軸上の格子点 Z が存在する。

ただし、 m, n は $0 < m < n$ となる整数である。

何だか中学生か高校生向けの計算問題のようですね。

何となく分かると思いますが、元ネタは (m, n) -Leaper と鬼を使ったフェアリー詰将棋で、11 に配置した受方の (m, n) -Leaper 王を2枚の (m, n) -Leaper で詰める手順を、鬼を配置して限定できないかと考えたときの成果です。この成果はフェアリー詰将棋としては実装できていませんが、せっかく得たものなので紹介しようと思った次第です。よくよく考えると結構当たり前だったりもしますが。

以下、大まかな解説です。なお、 x の y 乗を x^y 、 x を越えない最大整数を $[x]$ 、 x の正の平方根を $\text{sqrt}(x)$ と表しています。

図1. で、 A, B, C は前述の通り、 AC の中点を D, E は y 軸上にある $AC \perp DE$ となるような点、 BC の中点を F, G は y 軸上にある $BC \perp FG$ となるような点とする。 $E(0, e)$ 、 $G(0, g)$ とすると、格子点 Z が存在するということが、 $g < z < e$ となる整数 z が存在するということが同じである。

$$e = (m^2 + n^2) / (2m + 2n)$$

$$g = (m^2 + n^2) / (2n + 2m)$$

なので、

$$e - g = (n - m) (m/n + n/m + 4) / 2 > 1 \cdot (2 + 4) / 2 = 3$$

つまり、 g と e の間には少なくとも3つの整数が存在するということが分かる。したがって、所望の格子点 Z は存在する。

格子点 Z をもう少し具体的に、というかももう少し簡単に計算できる形で求めてみる。 AB の中点を H, CH の中点を I, J を y 軸上にある $CH \perp IJ$ となるような点とすると、 $J(0, 3(m+n)/2)$ である。 $j = 3(m+n)/2$ とすれば、

$$j - g = (n - m) (m/n + 2) / 2 > 1 \cdot 2 / 2 = 1$$

なので、 $[j] > g$ である。

$m+n$ が偶数のとき、

$$e - j = (n - m) (n/m + 2) / 2 > 2 \cdot (1 + 2) / 2 = 3$$

なので、 $[j] + 3 = j + 3 < e$ である。

$m+n$ が奇数のとき、

$$e - j = (n - m) (n/m + 2) / 2 > 1 \cdot (1 + 2) / 2 = 3/2$$

なので、 $[j] + 2 = j - 1/2 + 2 = j + 3/2 < e$ である。

いずれの場合も、 $[j] + 2 < e$ である。したがって、 $(0, [j])$ 、 $(0, [j] + 1)$ 、 $(0, [j] + 2)$ が所望の3つの格子点 Z である。

格子点 Z は3つ以上存在するが、4つ以上存在するとは限らない。例えば、 $m=1, n=2$ のとき、 $g=3+1/4, e=6+1/2$ なので、格子点 Z は3つしか存在しない。一般に、 $n=m+1$ のとき、

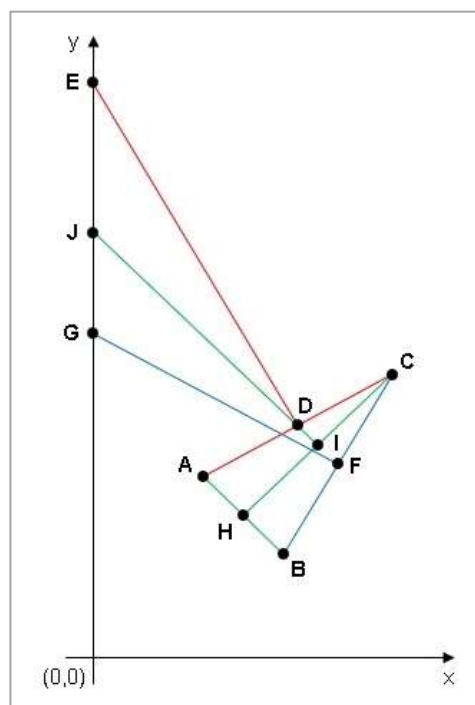
$$g = 3m + 1/2n$$

$$e = 3n + 1/2m$$

なので、 $g < z < e$ を満たす整数 z は3つだけ、つまり格子点 Z は3つだけ存在する。

さてこのシリーズ、 (m, n) -Leaper などと跳躍成分が明示されていない $\text{sqrt}(p)$ -Leaper を扱うところから始まっています。 $4k+1$ 型の素数 p が与えられたときに、 p で3つの格子点 Z を表すことはできるでしょうか。結論から言うとできます。 $r = [3\text{sqrt}(p/2)]$ とすると、 $(0, r)$ 、 $(0, r+1)$ 、 $(0, r+2)$ となります。それほど面倒な説明にもなりません、紙幅も尽きたようなのでやむなく割愛します。

図1



解答募集締切一覧

ネットでのフェアリー詰将棋の解答募集締切一覧です。締切日が早いもの順です。解答先は各々異なりますのでお間違えにないように。

2018年12月15日(土)

第106回 WFP 作品展

フェアリー作品 8題
推理将棋 1題

Fairy of the Forest #57

協力詰 3題

2019年2月15日(金)

第107回 WFP 作品展

フェアリー作品 11題
推理将棋 1題

作品募集締切一覧

2018年12月15日(土)

ちょっと早い2019年年賀詰作品展

恒例の作品展です。フェアリー作品、普通詰将棋、推理将棋なんでも可
干支は「亥」です。

投稿先：たくぼん (takuji@dokidoki.ne.jp)



あとがき

早いもので2018年もあと40日ちょっととなりました。この間までは暑い夏で汗をかいていたと思ったらあっという間に秋が来て冬と時の流れるのは早いものです。

作品募集要項を掲載していますが、ちょっと早い2019年年賀詰作品展も来月開催予定です。詰将棋メモの推理将棋コーナーが滞った状態ですので、推理将棋作家の皆さんも是非投稿頂ければと思います。ここ数年は、神無太郎氏、神無七郎氏と私というメンバーで固定化している感じがしていますので是非たくさんのメンバーで新年を祝いたいと思いますのでご協力よろしくをお願いします。

また来年は元号が5月に変わります。この時にも新天皇即位記念で記念作品展をやりたいと思っておりますので準備(?)の方もよろしくをお願いします。まあ新しい元号が発表されないとなかなか実感が湧いて来ないかとも思います。

たくぼん

2018年 第125号

Web Fairy Paradise

非売品
平成三十年十一月号
平成三十年十一月廿日発行

発行所 愛媛県新居浜市
発行兼編集人 須川卓二
発行所 Web Fairy Paradise 編集部
問合先 takuji@dokidoki.ne.jp
須川卓二 takuji@dokidoki.ne.jp